コラム 10-4　共感性がないとはどういうことか

共感化には，他者の心的状態を推論する「心の理論」の働きを中心とした認知的共感だけでなく，他者の心的状態に適切に反応する情動的共感が含まれています。この 2 つは，どのように違うのでしょうか。

たとえば，携帯を見ながら歩いている人が道路脇に止めてある自転車にぶつかるのを見て「痛いだろう」と考えるのは「認知的共感」ですが，その人の痛みを自分の痛みとして共有する（思わず顔をしかめてしまうことなど）のは「情動的共感」です。この 2 つは，一般的にはほぼ同時に生じますが，ときには「認知的共感」は起こっても「情動的共感」は起こらないことがあります。

テレビのニュース画面で飢餓に苦しむ人々を見たとき，その人々の苦しみは理解できても（認知的共感），特に同情など（情動的共感）は感じないことがあります。2 つの共感が起こることの重要性は，痛みの共感などの例がわかりやすく，他者の痛みを認知的に共感するだけでなく，情動的に共感することで，他者への攻撃に抑制が起こることが社会生活上重要な意味を持っていることがわかっています。

一般にサイコパスと呼ばれているようなある種の精神障害（正確には反社会性パーソナリティ障害）の一部の人には，他の人を傷つけることを楽しんでいるような行動が見られることがありますが，これは彼らに単純に共感性が欠如していることを示すとは限りません。彼らは，自分の行為が他者を苦しめることを理解すること（認知的共感）には問題がありませんが（それゆえに他者の苦痛を楽しむということが起こる），その苦しみ自体には共感しない（情動的共感の欠如）ために，残酷な行為を平然と行えると考えられています。

このような共感処理の特異性については，近年の脳画像研究によって，脳神経レベルで共感性の処理に関わる特定の脳部位に機能不全が起こっている可能性が指摘されていることから，一種の脳神経障害と考えるべきであるとの指摘がなされています。この事実は，この種の障害には，カウンセリングや教育のような心理的なアプローチでは問題行動を変えることができない可能性を示唆しています。